

7月16日 オンライン講演会 質疑応答集

1. プレスターHは、柱芯間455mmでも取付け可能ですか？

⇒ はい、可能です。適用範囲 W450タイプ（450～460mm）となります。

2. ピタットベースは、基礎と緊結ですか？

⇒ はい、基礎と緊結になります。

M20のアンカーボルトを基礎部へ埋設してピタットベースと緊結します。

3. 変形角1/30rad.と1/15rad.の違いは何ですか？

⇒ 木造軸組工法住宅の許容応力度設計（通称グレー本）に示される耐力壁の試験方法における耐力壁の傾き（変形角）となります。変形角1/30rad.は安全限界と呼ばれ、1/15rad.は倒壊の危険がある変形角となります。プレスターHは住宅の倒壊の危険性のある1/15rad.においても耐力を発揮することができます。

4. プレスターHは、同一面内に構造用合板との併用は可能ですか？

⇒ 併用は可能です。

5. プレスターHの設置では、間柱の取付けが難しいですか？

⇒ W600タイプでは、間柱の設置が必要になる場合があり、間柱を欠き込み取付ける形になります。

6. プレスターHは、4号建物に使用できませんか？

⇒ 4号特例の建物では、告示壁倍率の壁量計算を行っているケースが多く、告示壁倍率との組み合わせが出来ません。プレスターHの性能評価は、短期許容せん断耐力での評価取得となり、許容応力度計算（46条2項ルート）が必要になります。

7. 岡部での構造計算ができますか？

⇒ 岡部での構造計算は行っておりません。プレスターHのTタイプ（耐震）、Gタイプ（制振）については、せん断耐力早見表やEXCEL計算シート提供などのサポートを行う予定です。

8. プレスターHのCRプレートの重量はどのくらいですか？また、一人での取付けは可能ですか？

⇒ CRプレートは、1枚約1kgですが、プレスターHの部材全てを組み立てると1セット・約10kgとなります。

9. ピタットベースのアンカーボルトの埋込長さは？

⇒ アンカーボルトは、全長 L=470mm でコンクリート埋込は、L=370mm となります。

10. プレスターH-T タイプ（耐震）の場合、最も下げて配置した場合、腰壁 900 を設けた場合との違いはありますか？

⇒ 腰壁だけの場合、耐力壁とみなさないが、プレスターH-T タイプを使用し腰壁とした場合、耐力壁としての役割をするため優位に設計できると思います。

11. Gタイプは制振効果が考慮されせん断耐力（壁倍率）と想定されますが、建物形状（大きさ、階数）を反映する必要があるのではないのでしょうか？

⇒ プレスターH-G タイプ（制振）のせん断耐力は、あくまでも壁の耐力としての数値です。よって、制振性能を考慮しておりません。また、制振能力としては、+アルファとしての能力とお考えください。Gタイプの制振能力については、建物の形状により、変形能力は変わりますので、ご検討いただく必要はあると思います。

12. 許容応力度設計で、無等級材使用するときは、7倍使えますか？

⇒ プレスターHは、無等級材の使用では評価外となります。JAS材が評価仕様となります。

13. GタイプはTタイプの約85%程度の耐力ですが、安価でしょうか？

⇒ プレスターHのTタイプ（耐震）とGタイプ（制振）では、Gタイプの方が、価格が高くなります。制振装置とすれば、従来品の制振装置では安価タイプとなります。

14. GとTは、使い分けはどのようにするのでしょうか？

⇒ プレスターH-Tタイプ（耐震）は、耐力壁としてご使用ください。W450（W600）の狭小壁なので、設計のプランニングを向上していただくとメリットがあります。

プレスターH-Gタイプ（制振）は、減衰性能をもっておりますので、大きな地震の揺れを低減することと繰り返しの揺れにも効果を発揮いたします。

ご協力のほど誠に有難う御座いました。

主催：独立木造部会

共催：NPO法人九州森林ネットワーク

共催：(一社)九州木質建物協議会